

平成24年度 第2回教育研修委員会 議事録

日 時: 2012年10月26日(金)12:00~13:30/名古屋国際会議場 会議室431南

出席者:米 和徳 担当理事、種市 洋 委員長、大川 淳、竹林 庸雄、田中 靖久、出沢 明、中村 雅也 各委員

欠席:星地 亜都司、根尾 昌志、松山 幸弘 各委員

審議事項

1. 平成24年度クリニカルフェローの研修者について
 - ・ 平成24年度クリニカルフェロー研修者10名(短期クリニカルフェロー1名含む)の研修状況につき、報告があった。平成25年度3月末までに研修を終了するフェローは、平成25年度の総会にて認定証の授与を行うことが確認された。
2. 平成25年度クリニカルフェロー募集案内について
 - ・ 例年通り、平成25年度のクリニカルフェローの募集を行い、募集案内の内容、表記方法に問題が無いことが確認された。
3. 第10回脊椎脊髄病研修コース実施報告について
 - ・ 種市洋委員長より、第10回研修コースの参加人数、収支決算についてご説明いただき、今後の研修コースにおいて、いかに収支を安定させ赤字とにならないようにするか、各委員にて意見を交換した。
(詳細は「項目4 第11回脊椎脊髄病研修コース実施計画について」に記載)
4. 第11回脊椎脊髄病研修コースについて
 - ・ 各コースマネージの先生より、第11回研修コースのコーステーマ、講師案が提示され、理事会の審議を得ることになった。(翌日の理事会で承認された)
 - 【Iコース(脊椎脊髄外科指導医向け):根尾 昌志 委員(代理発表:種市委員長)】
コーステーマ:高難度脊椎脊髄手術のピットフォール
 - ① 徳橋 泰明 先生:高難度手術の術前準備とプランニング
 - ② 松山 幸弘 先生:胸椎OPLL手術
 - ③ 山崎 正志 先生:上位頸椎手術
 - ④ 村上 英樹 先生:脊椎脊髄腫瘍手術
 - ⑤ 小森 博達 先生:高難度手術の術前説明と医療事故の対応(医療安全単位)
 - 【IIコース(脊椎脊髄病向け):田中 靖久 委員】
コーステーマ:腰椎椎間孔狭窄の診療ー特に脊柱管内狭窄併存例への対策ー
 - ① 田中 靖久 先生:腰椎椎間孔狭窄の実際
 - ② 森山 明夫 先生:腰椎椎間孔狭窄の病態
 - ③ 西村 行政 先生:上位腰椎椎間孔狭窄
 - ④ 中井 修 先生:腰椎椎間孔狭窄による再手術例ーfailed back を減らすためにー
(医療安全単位)

⑤ 山田 宏 先生:第5腰神経のダブルリージョンに対する脊椎内視鏡を用いた治療戦略

【Ⅲコース(脊椎内視鏡手術コース):出沢 明 委員】※例年の半分の講義数

- ① 出沢 明 先生:内視鏡の歴史と世界の方向
- ② 吉本 三徳 先生:内視鏡解剖と器具
- ③ 中川 幸洋 先生:MEDによる椎弓切除の pros and cons
(山田宏先生がⅡコース案と重なったため変更)
- ④ 竹内 一裕 先生:内視鏡前方法の基本と応用
- ⑤ 西良 浩一 先生:経皮的内視鏡手技の基本

- ・ 上記講師には運営事務局より11月中旬を目途にお電話にて内諾をいただき、委員長および各コースマネージにご報告の上、正式依頼状をお送りする。
- ・ 参加者の利便性と会場費を考慮し、各コース8:30開始(Ⅲコースは講義→実技)、Ⅰ・Ⅱコースは昼食をランチ形式とし、出来る限り早い時間の終了を目指すこととする。
- ・ タイムスケジュールなどの詳細は、運営事務局より各コースマネージャー、種市委員長とご相談の上、確定する。
- ・ 運営事務局は上記の新たな講師案、タイムスケジュールに沿い、会場使用計画および予算を再検討し再提案する。
- ・ 第11回研修コースについては、コングレと契約することが承認された。
コングレは、学会(理事長)と契約書を締結する。

5. 今後の研修コースのあり方について

- ・ 種市委員長より、各コースの過去の実績(参加者数・予算・開催時期、場所等)をもとに、今後の研修コースのあり方につき、議論がなされた。
- ・ これまでの実績から、指導医更新のための50症例充当目的にIコースを受講している指導医は150名以上いるため、存続する必要があるだろう。
- ・ IIコースはSS取得目的のみでなく、系統だった基本的情報を脊椎脊髄病医に提供できるコースとして存続意義がある。また、指導医申請者が医療安全講習を受ける場としても存在させて方が良い。
- ・ 内視鏡技術認定医はコンスタントに30例の新規申請がある。そのための認定コースは十分とはいえJSSRとしても規模を縮小しつつIIIコースを提供する必要がある。
- ・ 東京、神戸などアクセスのよいところでの実施は参加者数確保を期待できる。開催地が他の地域の場合、独立開催も考慮する。
- ・ コースの財務基盤を安定させるために企業からの寄付を積極的に募る必要があるが、見返りとして企業側の希望をコースに反映させるようなことはしない。
- ・ その結果、研修コース自体は継続実施していくが、開催時期、開催地、各コース内容、定員数等についてはその回ごとに検討し、マイナーチェンジをしながら、より有効かつ効果的なものとするのが全委員の承認を得、確認された。

6. 第12回脊椎脊髄病研修コースについて

- ・ 第10回研修コース参加者アンケートをもとに、開催地(JSSRと連動開催か独立開催か)、開催時期について検討した。参加者がより参加しやすい、東京近郊での独立開催案が提示さ

れた、東京近郊での適切な会場を検討することとなった。(翌日の理事会にてJSSRとの連動開催が望ましいという結果となり、京都開催となる方向で今後検討する。会場については、コース案や定員規模に沿い、適切な会場を選択することになった。)

7. 第2回術中脊髄モニタリング・ハンズオンセミナーについて

- ・ 種市委員長より第2回術中脊髄モニタリング・ハンズオンセミナーについて、本年度は36名が10施設に派遣されることの説明があった。

8. その他

- ・ 次回の第3回教育研修委員会はJOA専門医開催中の2013年1月17日(木)17:00～ホテル日航東京に決定した。

以上